



格調高い佇まいを見せるお茶屋の建築が並び、石畳の路地を華やかな芸舞妓が行き交う京都の祇園。日本の伝統文化が凝縮された風情ある街の代表だ。訪日外国人観光客に人気のスポットの一つであり、連日こた返している。あまりの観光客の多さに本来の趣が損なわれるという問題や、芸舞妓の写真を撮影しようとパパラッチのように追いかけ回すといったマナーの問題など、最近は観光公害の問題ばかり目にするのは残

## 花街文化の継承とまちづくり



屋」、茶屋に料理を届ける

「料理屋」、芸舞妓を抱える「置屋」の3業が営業できるエリアが花街であり、祇園は京都五花街の一つである。そして、この花街は、日本の伝統文化「唄、踊り、華道、茶道などの芸事、お茶屋の和風建築や部屋の仕事、供される和食やお酒などが包括的に継承されている稀有な街である。しかも地域によって、継承されている花街文化はさまざまである。その地域に

いまむら・むいち  
都市計画・まちづくり  
。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士（工学）。1974年生まれ。

減少している。

念だが、祇園が持っている花街文化が世界に通用する文化資産であり観光資源であることを再認識させられる。

ここで「花街」という言葉について説明しておきたい。「はなまち」ではなく、本来は「かがい」と読む。京都を例にとると、芸舞妓を呼んでお座敷を開く「茶

# 消える文化 再評価して活かせ

檀山女学園大学  
文化情報学部准教授

今村 洋一

昔から伝わる唄や踊り、風土に根差した建築様式、郷土料理や地酒など、そこですら体験できない豊かな伝統文化が、それぞれの花街にある。しかし、料亭での接待の減少や、多様な業態の飲食店の出現、景気低迷などから、かつて全国津々浦々500ほどあった花街は、今では30〜40程度まで

いくのは容易ではない。花街文化を前時代的なものとして消えゆくにまかせるか、文化資産として捉えて守り伝え、観光資源として活(い)かしていくか。これは、まちづくりの戦略に関わる問題である。

昔から伝わる唄や踊り、風土に根差した建築様式、郷土料理や地酒など、そこですら体験できない豊かな伝統文化が、それぞれの花街にある。しかし、料亭での接待の減少や、多様な業態の飲食店の出現、景気低迷などから、かつて全国津々浦々500ほどあった花街は、今では30〜40程度まで